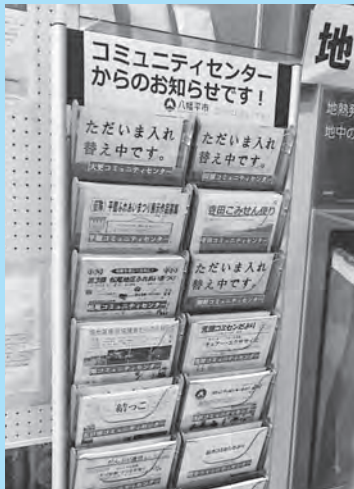


コミセンの活動は ここでチェック！



活動状況や事業の案内は、各地区のコミセンから世帯に配布されていますが、他地区のものを見る機会はありません。



そこで、全てのコミセンの広報紙を見ることが出来るコーナーを市役所本庁舎内に設置しました。本庁にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



また、各コミセンでは、紙フェイスブックのほか、Facebookによる広報も行っています。ぜひ「いいね！」ボタンを押して、最新情報をチェックしてください。

～みんなの地域は"たからのやま"～

コミセン内や付近の施設を見学



田頭コミセン



館山公園



松尾ふれあい文化伝承館

この研究を行うに当たって、計画未策定の協議会の中から人口規模の大きな協議会として松尾地区、中程度の協議会として田頭地区、小さい協議会として五日市地区をそれぞれモデルとして選定。8月8、9の両日、研究を担当する吉野英岐教授と、研究室に所属する学生7人が3地区のコミセンを訪ね、研究が始まりました。

初回は、まず地域を知ろうということで、地域の特徴などを調査。地域振興協議会の主な役員やコミセン事務局員から、地域の実情などについて聞き取りを行いました。

市内3地区で研究を開始



皆さんから地域の特徴などを聞き取り(五日市コミセン)



学生たちは施設の掃除も行いました(松尾コミセン)

◆特集・コミュニティセンターと自治

みんなの地域は "たからのやま"

市は、本年4月から地域にコミュニティセンターを設け、地域の自治を推進していますが、より一層の進展を図るため、岩手県立大学と協働研究を行うことにしました。今回は、この研究のあらましについて紹介します。

こうして地域づくりを行っていくに当たって、その地域に住む皆さんが『将来どのような地域にしていきたいのか』という「思い」を、地域で共有することが大切です。

例えば、地域の里山を愛護していきたい、伝承芸能を核にしたまちづくりをしたい、といったその地域にとって守り育てていきたい「おたから」に対する思い。あるいは、地域にとって解決したい課題を実際にその地域に住んでいる皆さんで話し合

地域の理想像Ⅱ地域計画

市内では、4つの地域振興協議会で計画が策定されています。未策定の地域でも取り組みを進めやすくなるよう、市は、岩手県立大学と連携して、計画策定の手法について協働で調査研究を行うこととしました。

これは、岩手県立大学の地域協働研究(地域提案型)事業の枠組みによるもので、新しい地域住民自治のあ

い、「将来こうあるべき理想の姿」を共有すること。こういった「思い」が明らかになることによって地域の未来は変わってきます。



この「思い」を形にしたものが、一般に地域計画と呼ばれているものです。計画をつくること自体は目的ではありません。策定の過程で、地域の話し合いを通し、「思い」を皆さんで共有するという過程こそが重要といえます。

県立大学と協働で研究を



地域自治の核となるよう期待を担ったコミュニティセンターが立ち上がり、早くも7カ月が過ぎました。それぞれのコミセンが、それぞれの地域に住む皆さんの手で運営され、さまざまな生涯学習・スポーツ事業、地域づくり事業が企画・実施されています。

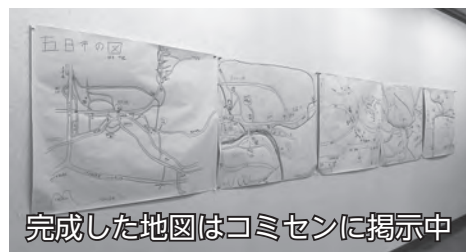
各コミセンを運営する指定管理者の地域振興協議会と市は、月1回開催する事務局会議で情報を共有。このほか、四半期に1回行う代表者連絡会議で、今後のコミセンのあり方などについて、話し合いを重ねています。



岩手県立大学 総合政策学部
吉野 英岐 教授



書き上げたカレンダーをみんなで確認



完成した地図はコミセンに掲示中

地域を客観視するのは難しい

地図づくりを通じて、地域のことを再認識してもらい、カレンダーで時間の流れを確認してもらいました。

振り返りながら、方向付けしていく

何かを参考にするのではなく、地域のことを思い出してもらいながら、課題や事業の解決策を探っていきます。

みんなの知恵をまとめていきたい

皆さんの頭の中で考えていることはそれぞれ違います。話し合いを通じて個々の考えをまとめていくお手伝いをしていきます。

地域の"おたから"を生かすには、地域を知るのが第一歩

この取り組みでは、今後2回のワークショップを開催し、地域の課題や解決策をみんなで検討していきます。地域ぐるみで地域のことを考え、より良い地域にしていこうためにはどうしたら良いか探っていく、そのための第一歩として、初回は地図とカレンダー作成を行いました。

地域の将来像をどう描く

づくりに至らなかった例もありましたが、自分の住む地域を見つめ直す機会になった様子でした。田頭コミュニティセンターの伊藤正光センター長は「地域づくりの原点は地域を知ること。地図づくりを通して地元の良さを再確認できたのは素晴らしい」と意欲を高めていました。

今回の取り組みに参加している佐藤由季さん(県立大3年・鹿角市出身)は「あまり意識されていない資源や、良いところに気付くきっかけをつくることで良くなった。まちづくりを生かすのは難しいが、お手伝いをしたい」と次回以降に向けての意気込みを語りました。第1回のワークショップで作成した地図は、当分の間、各コミセンに掲示していますので、お立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。モデルとなった3地区では、次回から、具体的な地域づくりについて考える取り組みが始まります。また、3月には、各地区で取りまとめた成果を発表する場を設ける予定です。詳しくは、市役所地域振興課市民協働推進係(☎内線1144)まで。

地図づくりで地域を知る

10月1日、8日、3地区でそれぞれ第1回のワークショップを開催。地域住民参加の下、各コミセンを会場に行われました。

4人程度を1班として、それぞれの班に進行役として学生が入り、吉野教授の司会でワークショップが始まりました。

初回の目的は、まずは地域を知ることです。身近な地域であっても、なかなか普段から気に掛けていないような地域の良さを再確認する機会が少ないもの。手始めに、自分の住んでいる地域の地図をつくることから取り組みました。

最初は、各自が手元の紙に思い思いの地図を描きます。自分の家を中心に据える人、名所旧跡から書き始める人など、実にさまざまな地図が出来上がりました。

この地図を班ごとに持ち寄って、

日本中を見渡しても、同じ地域はどこにもない 地域の進むべき方向は、みんなで話し合って決めるもの



遠藤ヒサさん(町組)
自分では分かっているつもりでも、地域のことを思い出すのは大変でしたね



田村靖子さん(柏台)



伊藤真樹さん(繋沢)

地域の人と話して、さまざまな魅力を発見できました



学生が中心になって地図をまとめます

自分の地域を盛り上げていくうえで、とても勉強になりました

行事も地域の"おたから"

次は、地域の行事カレンダーを作ってみよう、という取り組みです。地域で行われている行事も、立派な地域の「おたから」です。昔から行われているもの、合併してから始めたもの、コミセンになってから始めたものなど、それぞれの地域で行われているさまざまな事業を紙に書き出します。

各自が頭の中にある行事を月ごとに書いていきますが、毎月となるとなかなか埋めるのが難しいもの。思いつく限りの行事を出しますが、地域の恒例行事であっても、つい忘れがちです。それぞれが書いたものを各班で持ち寄って、1枚の模造紙に書き出しました。

地図づくりが盛り上がったため予定時間を過ぎてしまい、カレンダー

模造紙に大きな地図としてまとめます。学生が中心になって話し合いながら、それぞれが作成した地図を書き写すと、班ごとに特徴あふれる大きな地図が完成しました。どこの班の地図にも共通して出てくるような名勝があれば、一つの班にしか出てこないような隠れた「おたから」もあり、それぞれの班で地域を再確認することができました。